

選挙に関する市民意識調査の結果について

令和7年10月14日

新居浜市選挙管理委員会事務局

1 調査の概要

(1) 目的

投票率の低下が続いている状況の中で、有権者の政治・選挙に関する意識、投票行動の実態について調査・分析を行い、投票率向上に向けた対策を講じていくことが求められていることから、今回、市民意識調査を実施した。

(2) 調査の方法

選挙人名簿登録者の中から次の要件を満たす者（1,000人）を無作為抽出

＊令和6年10月27日執行の衆議院議員総選挙及び最高裁判所裁判官国民審査並びに同年11月10日執行の新居浜市長選挙の選挙権を有する人

＊抽出日（令和7年3月12日現在）現在市内に居住している人（転出していない人）

(3) 調査事項

- ・回答者の属性
- ・政治（国・地方）や投票に対する関心度
- ・投票の有無等について（対象選挙：R6衆議選挙（10月）・R6市長選挙（11月））
- ・投票環境について
- ・今後の選挙について
- ・選挙啓発について
- ・選挙全般に関する自由意見

(4) 調査の実施時期

令和7年3月21日 調査票発送

令和7年4月30日 回答締切 以降、集計・分析作業を実施

(5) 調査票の回収数

340枚（34.0％）

(6) 調査結果の集計・分析

新居浜市選挙管理委員会事務局において集計・分析作業を実施

2 回答者の属性

<年代別>

○年齢（年代）		回答者数	割合
1	18～19歳	1	0.29%
2	20～29歳	26	7.65%
3	30～39歳	29	8.53%
4	40～49歳	41	12.06%
5	50～59歳	67	19.71%
6	60～69歳	61	17.94%
7	70歳以上	115	33.82%
	計	340	100%

<地区別>

○居住エリア		回答者数	割合
1	川西地区	90	26.55%
2	川東地区	91	26.84%
3	上部・別子山地区	153	45.13%
4	不回答	5	1.47%
	計	339	100%

<男女別>

○性別		回答者数	割合
1	男性	162	47.79%
2	女性	176	51.92%
3	その他	0	0.00%
4	不回答	1	0.29%
	計	339	100%

<居住年数>

○市内居住年数（通算年数）		回答者数	割合
1	1年未満	2	0.59%
2	1～3年未満	12	3.54%
3	3～5年未満	4	1.18%
4	5～10年未満	20	5.90%
5	10～20年未満	25	7.37%
6	20～30年未満	46	13.57%
7	30年以上	230	67.85%
	計	339	100%

＜職業＞

○職業		回答者数	割合
1	会社員等	142	41.89%
2	自営業・会社経営	27	7.96%
3	家族従業	3	0.88%
4	学生	2	0.59%
5	主婦（夫）	50	14.75%
6	無職（年金受給者含む）	98	28.91%
7	その他	17	5.01%
	計	339	100%

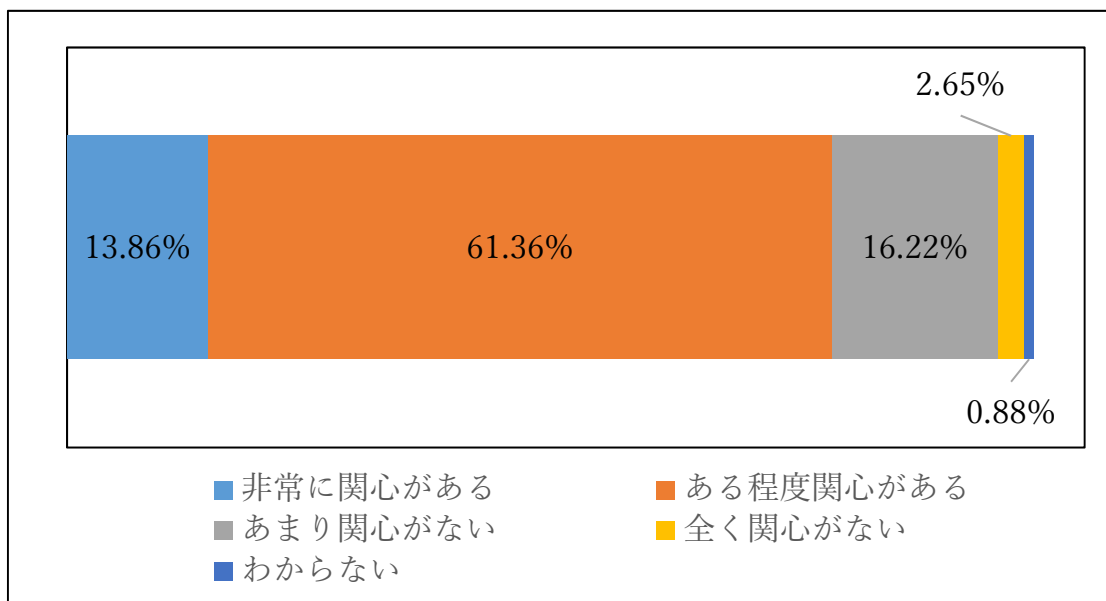
＜世帯構成＞

○世帯構成		回答者数	割合
1	1人世帯	58	17.11%
2	一世代世帯（夫婦のみ）	117	34.51%
3	二世世代世帯（親と子・親と同居）	144	42.48%
4	三世世代世帯（親・子・孫）	10	2.95%
5	その他	11	3.24%
	計	340	100%

3 調査結果及び分析

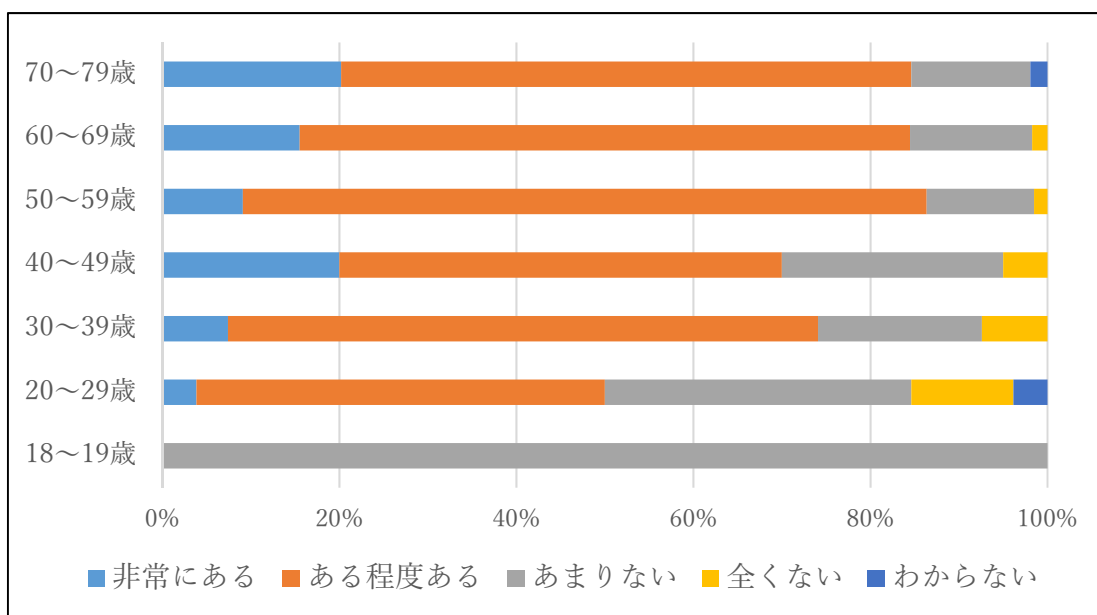
(1) 政治・選挙に対する関心等について

(ア) 国や地方の政治に対する関心について



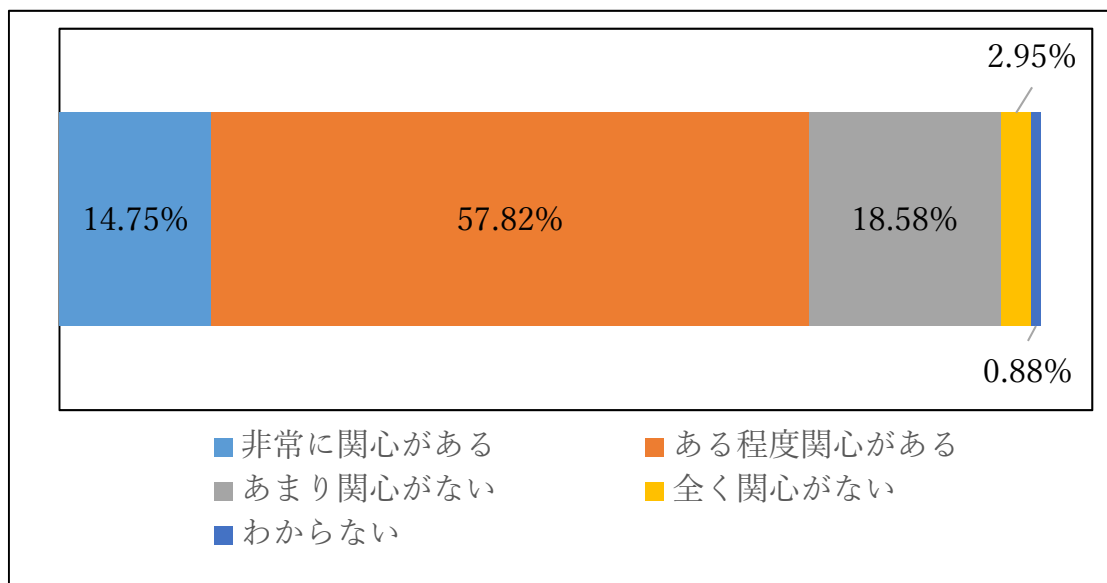
国や地方の政治に対する関心について問う設問では、「非常に興味がある（13.86%）」、「ある程度興味がある（61.36%）」あわせて 75.22%となるなど、一定「関心がある」と回答した人が全体の約 4 分の 3 を占める結果となっています。

【年代別の集計結果】



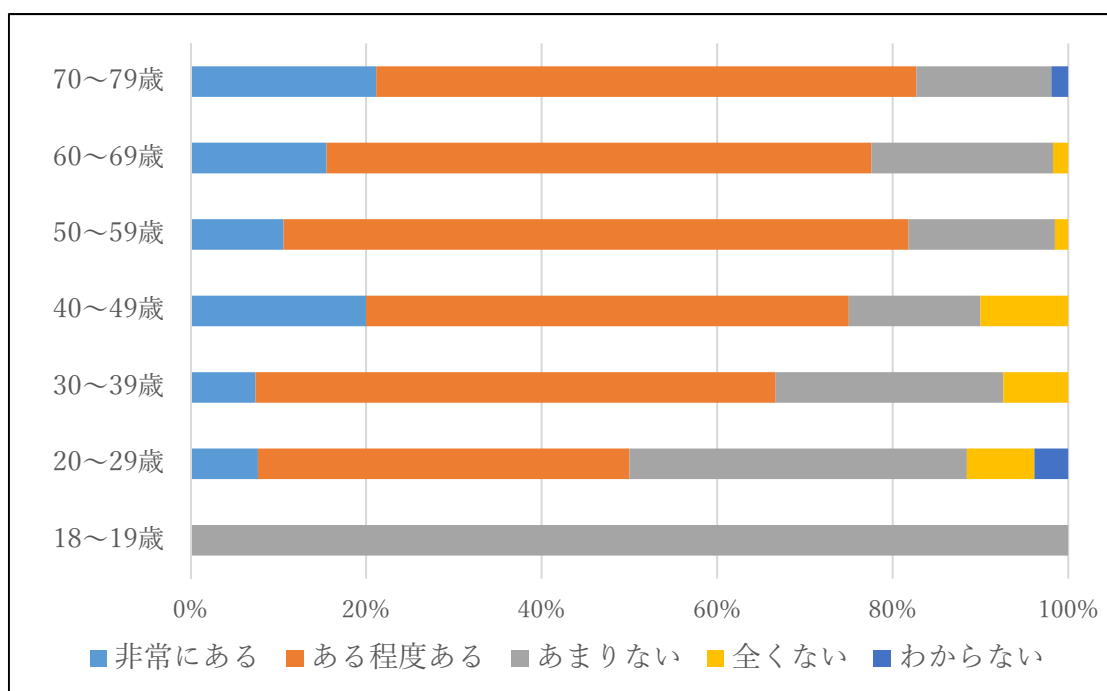
関心度合いを年代別に集計した結果、概ね年代が高くなるにつれて、「関心がある」人の割合が増加する傾向にあります。

(イ) 国や地方の選挙に対する関心について



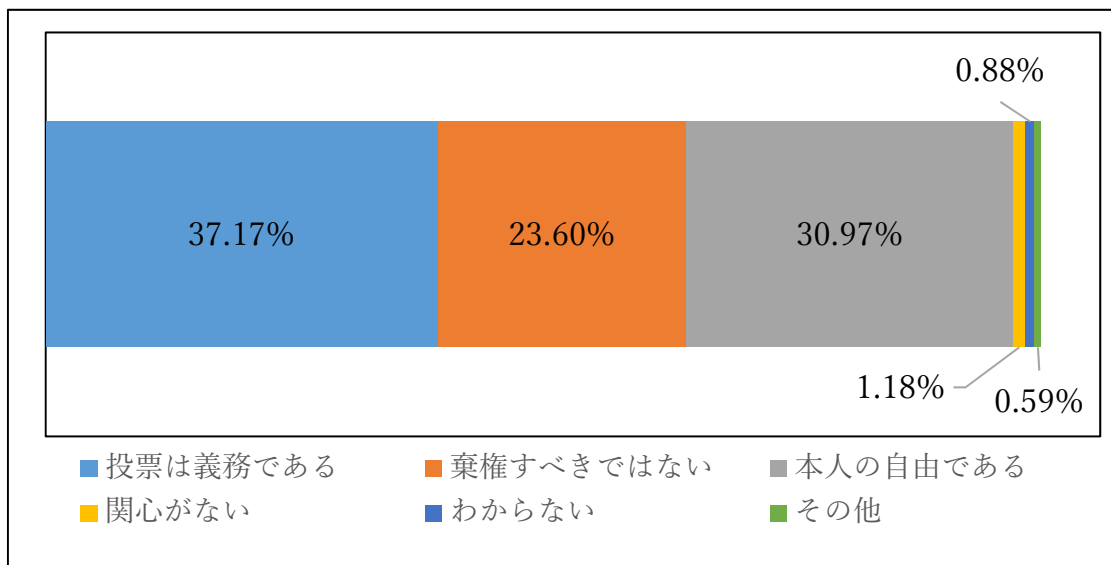
国や地方の選挙に対する関心について問う設問でも、「非常に興味がある（14.75%）」、「ある程度興味がある（57.82%）」あわせて72.57%となるなど、一定「関心がある」と回答した人が全体の約4分の3を占める結果となっています。

【年代別の集計結果】



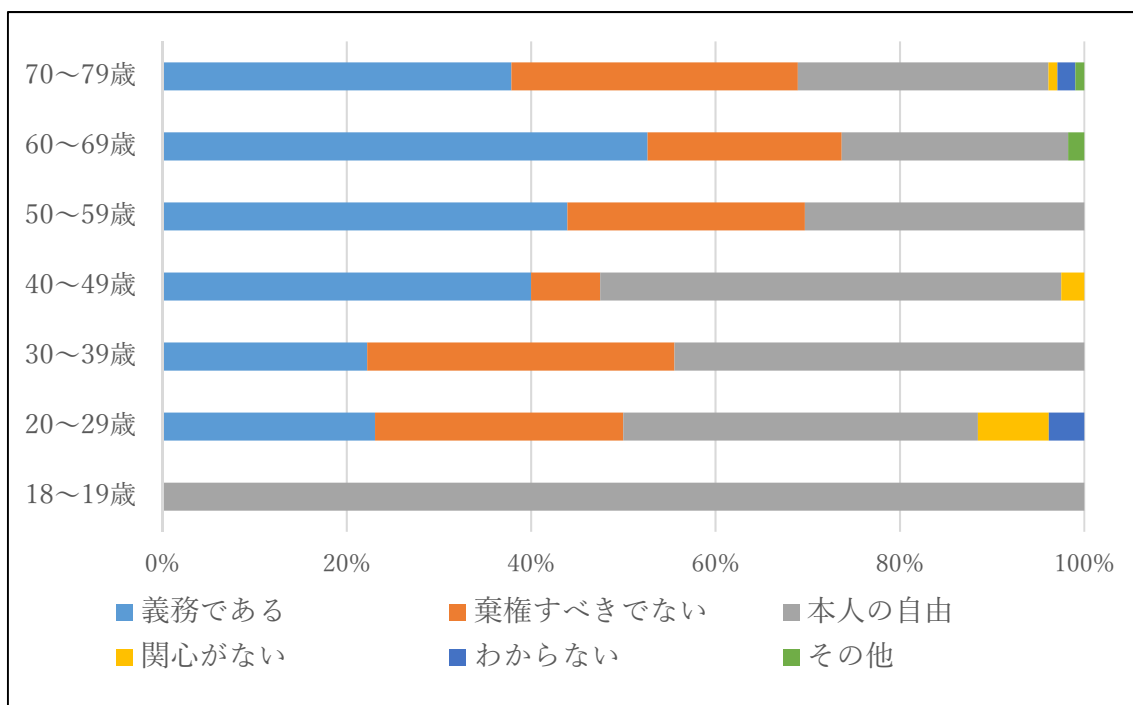
関心度合いを年代別に集計した結果についても同様に、概ね年代が高くなるにつれて、「関心がある」人の割合が増加する傾向にあります。

(ウ) 選挙で投票することについての考え



選挙で投票することについての考えを問う設問で、「投票は義務である（37.17%）」、「棄権すべきではない（23.60%）」あわせて 60.77%となるなど、「投票はすべきである」と考える人が全体の約6割を占める結果となっています。

【年代別の集計結果】

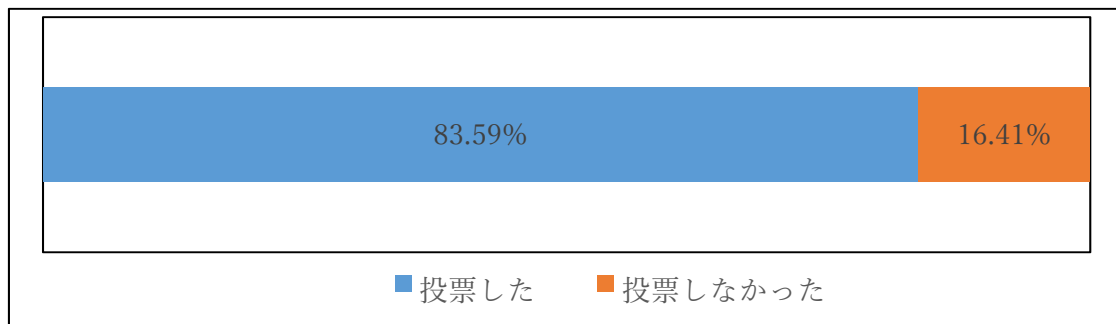


年代別に集計した結果は、20歳以上の年代で「投票はすべきである」と考える人の割合が半数を超え、概ね年代が高くなるにつれて、「投票はすべきである」と考える人の割合が増加する傾向にあります。

（２）昨年（令和６年度）行われた選挙での投票行動等について

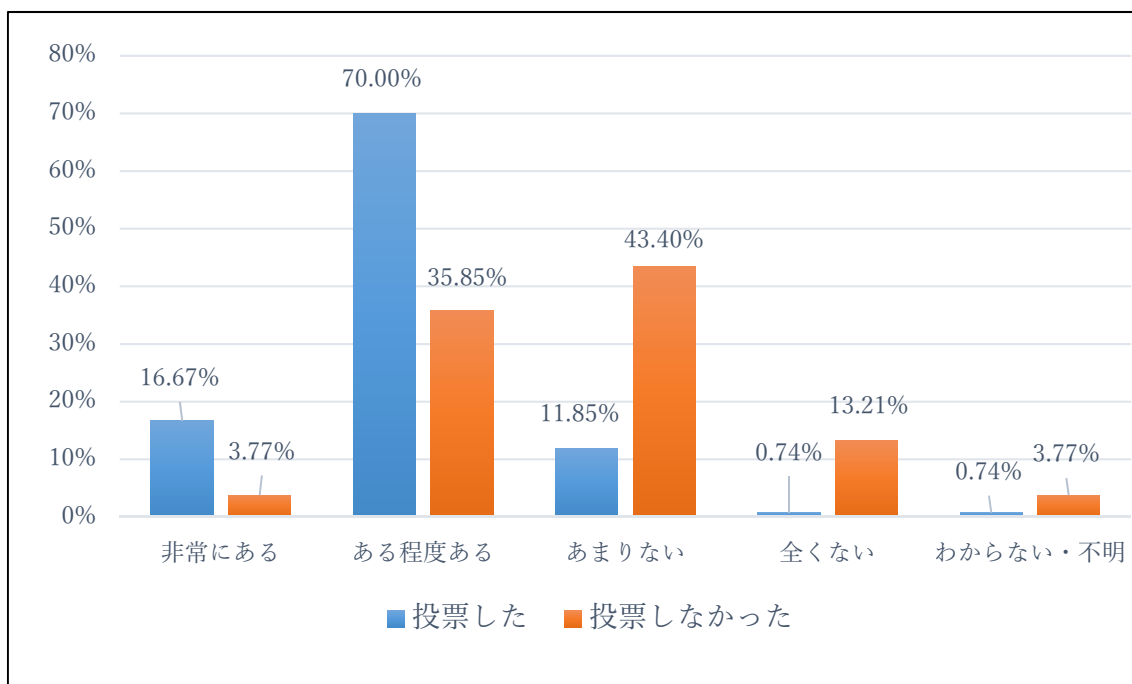
（ア）衆議院議員総選挙及び最高裁判所裁判官国民審査について

①投票の有無について



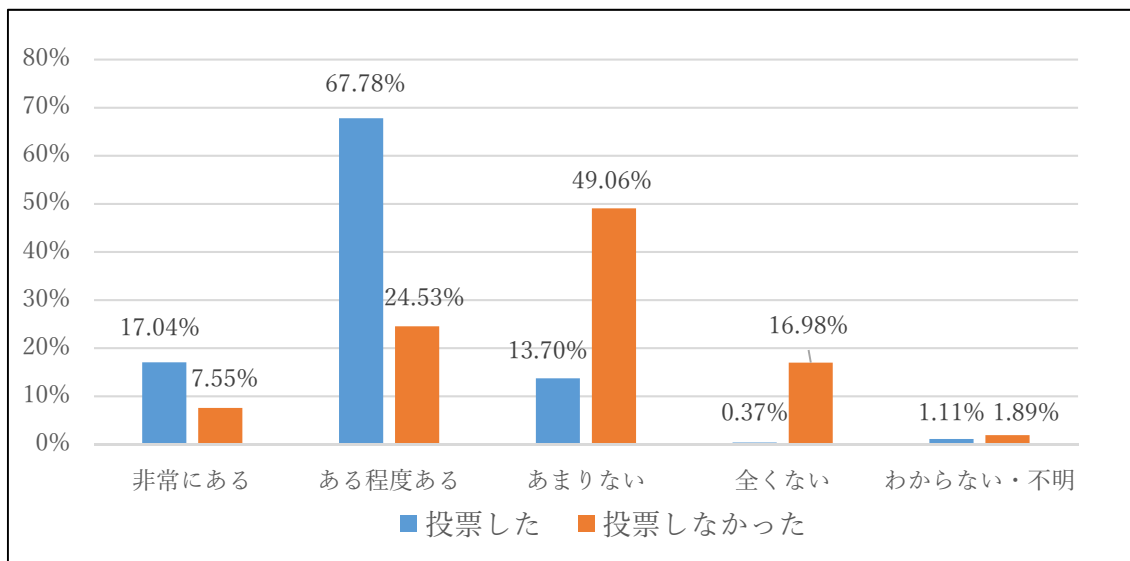
投票の有無に関する設問について、「投票した人」は８割を超え、「投票しなかった人」は２割未満という結果となっています。

【政治への関心度合いと投票行動との関係について】



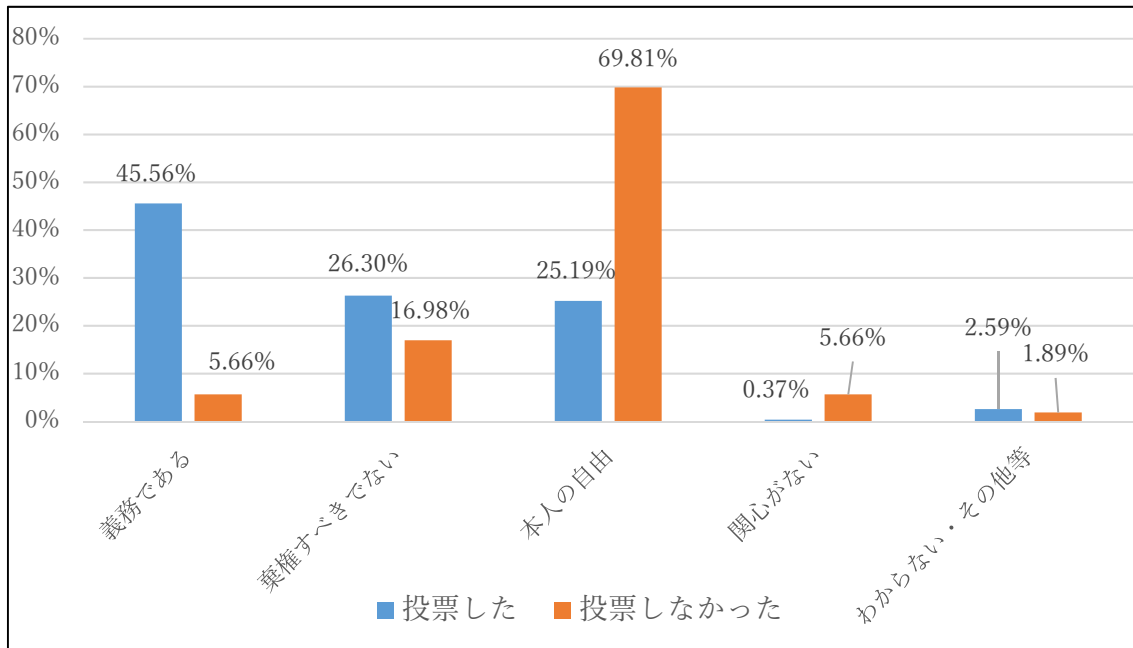
政治への関心度合いと投票行動との関係について、「投票した人」の政治への関心は、「非常にある（16.67％）」、「ある程度ある（70.00％）」あわせて86.67％となるなど、「関心がある人」は８割を超えた一方、「投票しなかった人」については、「非常にある（3.77％）」、「ある程度ある（35.85％）」あわせて39.62％と「関心がある人」は約４割で、「投票した人」と47.05％の差が生じており、政治への関心度合いと投票行動については、相関性が高いことがわかります。また、政治に「関心がある」ものの、投票を「していない」約４割の方について、実際の投票行動につなげてもらえるような取組みが求められています。

【選挙への関心度合いと投票行動との関係について】



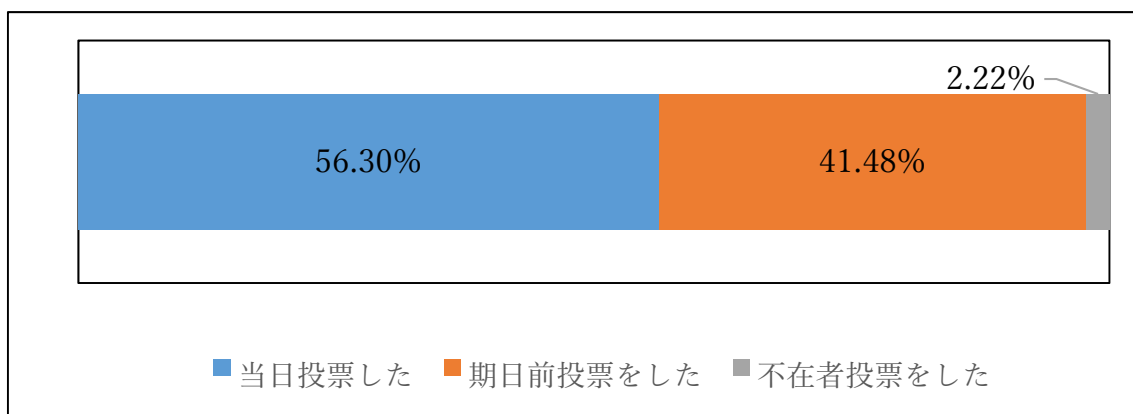
また、選挙への関心度合いと投票行動との関係についても、「投票した人」の選挙への関心が「非常にある（17.04%）」、「ある程度ある（67.78%）」あわせて 84.82%となるなど、「関心がある人」は8割を超えたのに対し、「投票しなかった人」については、「非常にある（7.55%）」、「ある程度ある（24.53%）」あわせて 32.08%と「関心がある人」は3割程度と、「投票した人」と 52.74%の差が生じており、選挙への関心度合いと投票行動についても、相関性が高いことがわかります。また、政治への関心度合いと同様に、選挙に「関心がある」ものの、投票を「していない」約3割の方について、実際の投票行動につなげてもらえるような取組みが求められています。

【投票への考えと投票行動との関係について】



投票への考えと投票行動の関係についても、「投票した人」の投票への考えが「義務である（45.56%）」、「棄権すべきでない（26.30%）」あわせて71.86%と、約7割が投票すべきと回答したのに対し、「投票しなかった人」については、「義務である（5.66%）」、「棄権すべきでない（16.98%）」あわせて22.64%と2割程度に留まる一方、「本人の自由（69.81%）」が7割程度を占め、投票に対する考え方の違いにより、実際の投票行動に差が生じていることがわかります。

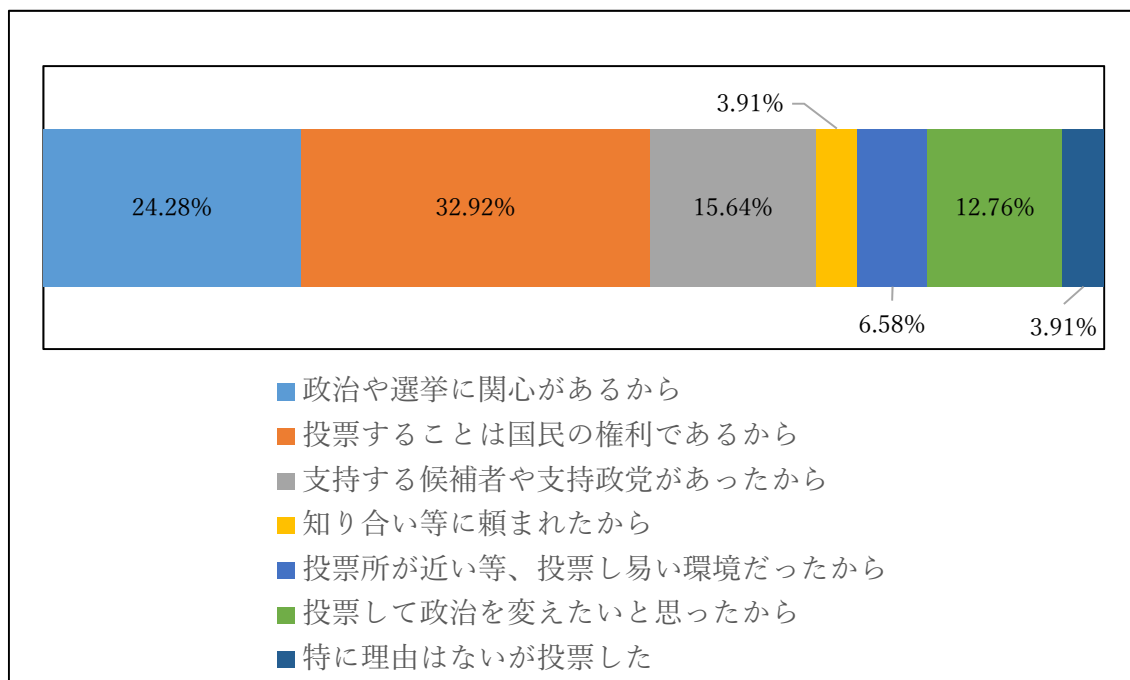
②投票の方法について



投票の方法については、「当日投票した」割合が半数以上を占め一番多いものの、「期日前投票をした」割合も4割を超えるなど、期日前投票の利用が多くなっています。

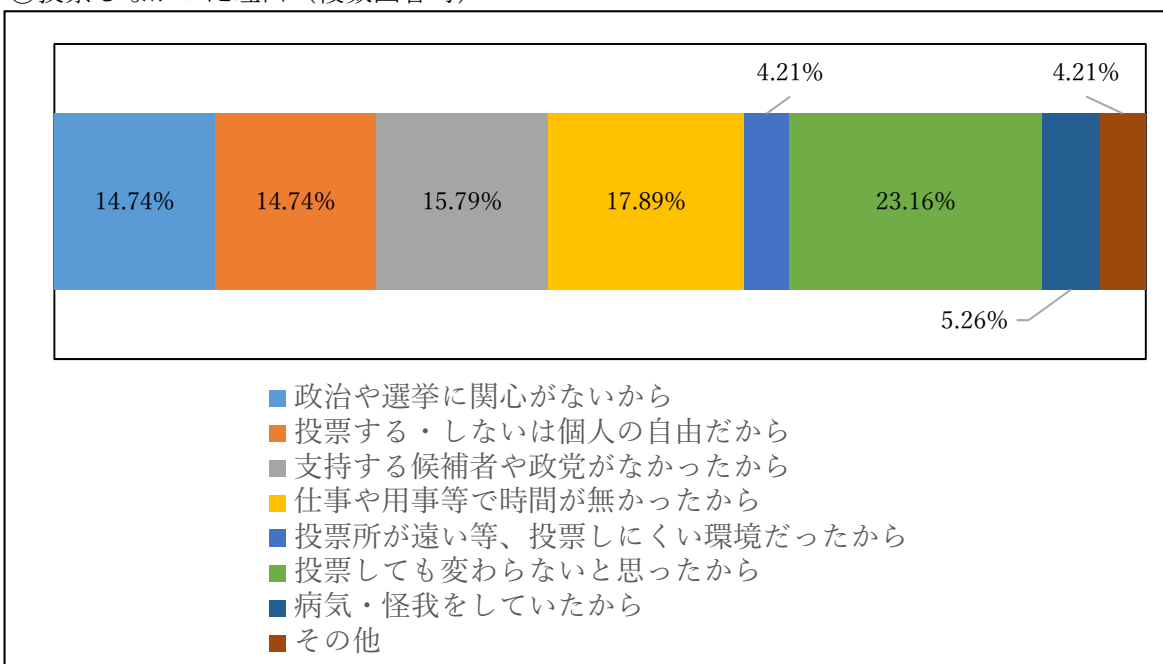
なお、衆議選挙の投票者数全体（小選挙区・国内）でも、当日投票60.14%、期日前投票38.71%となっており、今回の調査結果とほぼ一致しています。

③投票した理由について（複数回答可）



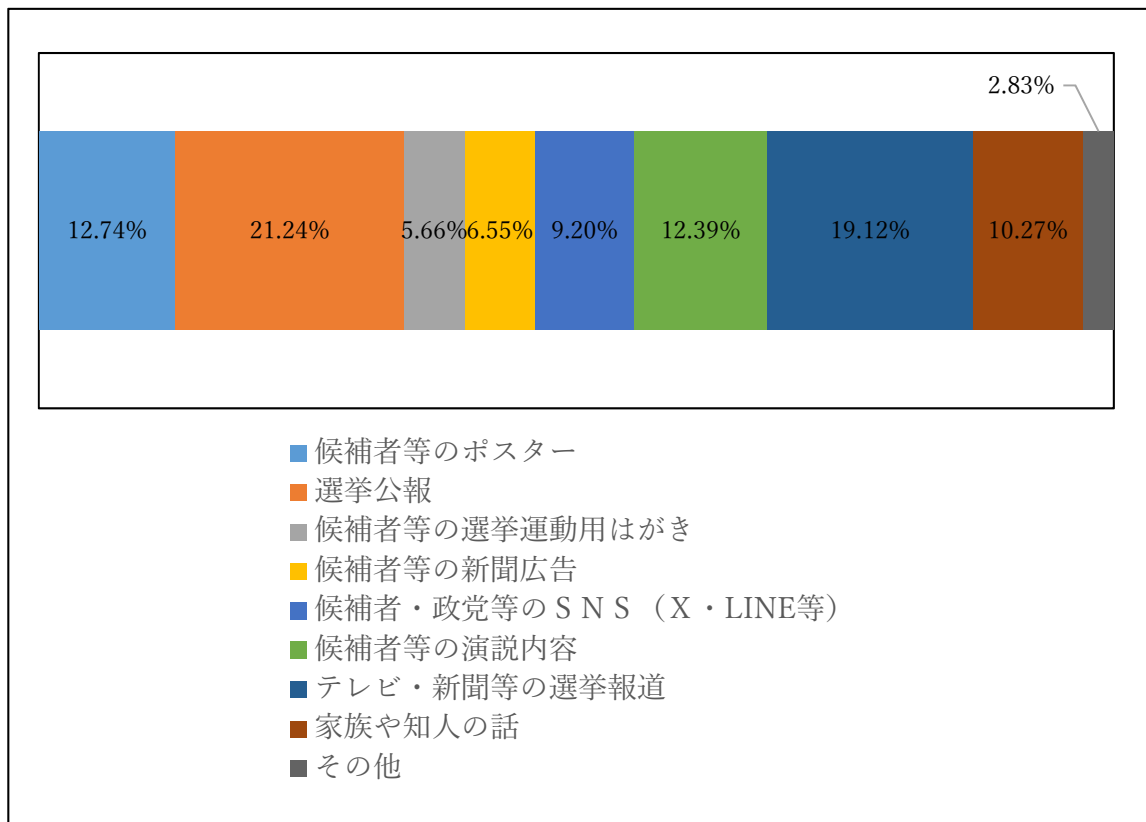
投票した理由については、「投票することは国民の権利であるから（32.92%）」の割合が一番高く、次いで「政治や選挙に関心があるから（24.28%）」、「支持する候補者や支持政党があったから（15.64%）」と続くなど、政治や選挙に関心を持ち、自分の意志で投票した人が多いという結果となっています。

④投票しなかった理由（複数回答可）



一方、投票しなかった理由については、「投票しても変わらないと思ったから (23.16%)」の割合が一番高く、次いで「仕事や用事等で時間が無かったから (17.89%)」、「支持する候補者や政党がなかったから (15.79%)」と続くなど理由は様々ですが、投票に際し「自分一人が投票しなくても変わらないのではないか」が多いという結果となっています。

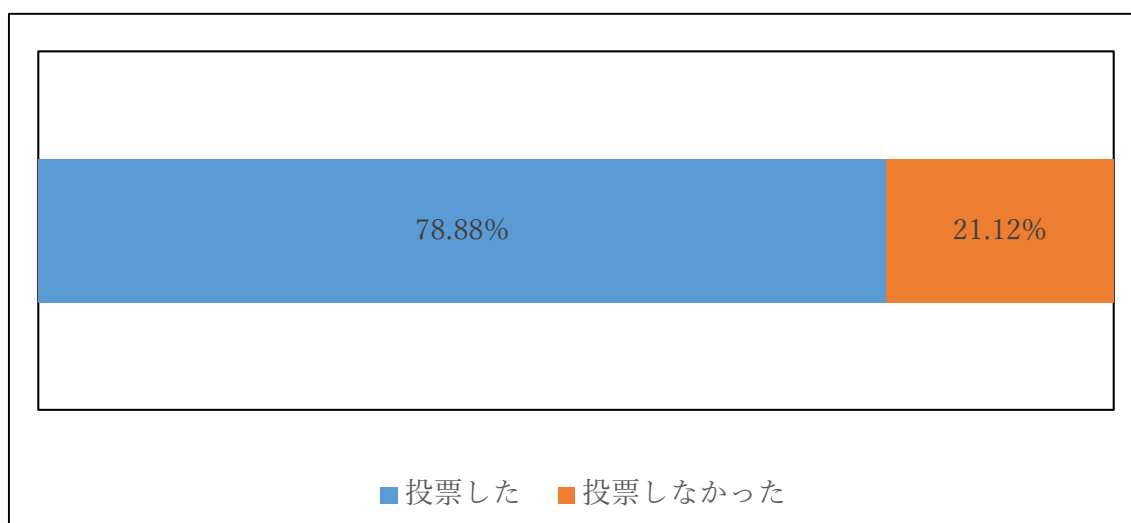
⑤投票する（しない）に影響のあった媒体（複数回答可）



投票する（しない）に影響のあった媒体については、「選挙公報 (21.24%)」の割合が一番高く、次いで「テレビ・新聞等の選挙報道 (19.12%)」、「候補者等のポスター (12.74%)」と続く結果となっています。近年、選挙運動等にSNSやインターネット（ホームページ等）を活用する候補者が増えるなど、SNS等の選挙に及ぼす影響が増えてきていると言われるものの、「候補者・政党等のSNS (X・LINE等) (9.20%)」は1割を下回る結果となり、従前からの媒体である選挙公報やテレビ・新聞等の選挙報道を参考にしている割合が依然として高い結果となっています。

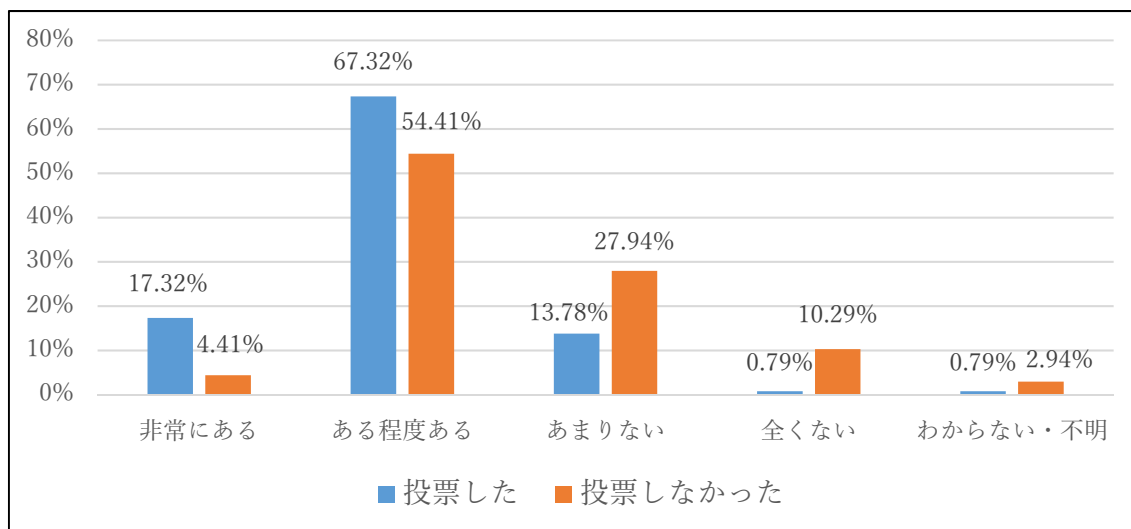
(イ) 新居浜市長選挙について

①投票の有無について



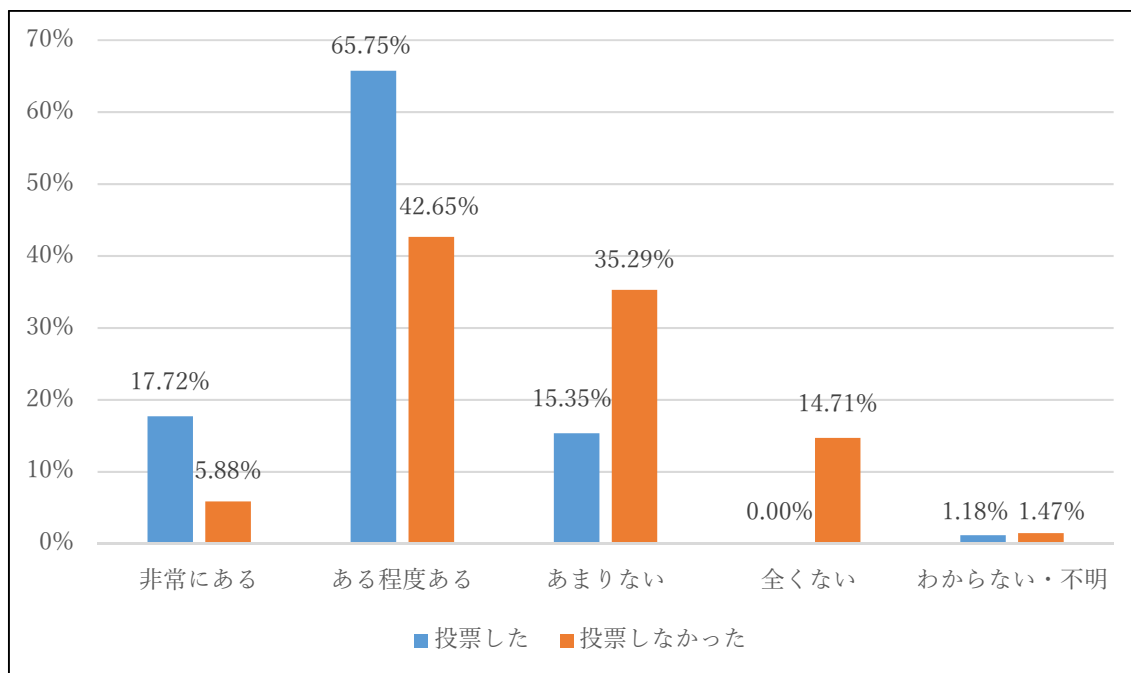
投票の有無に関する設問について、「投票した人」は約8割で、「投票しなかった人」は約2割という結果となっています。

【政治への関心度合いと投票行動との関係について】



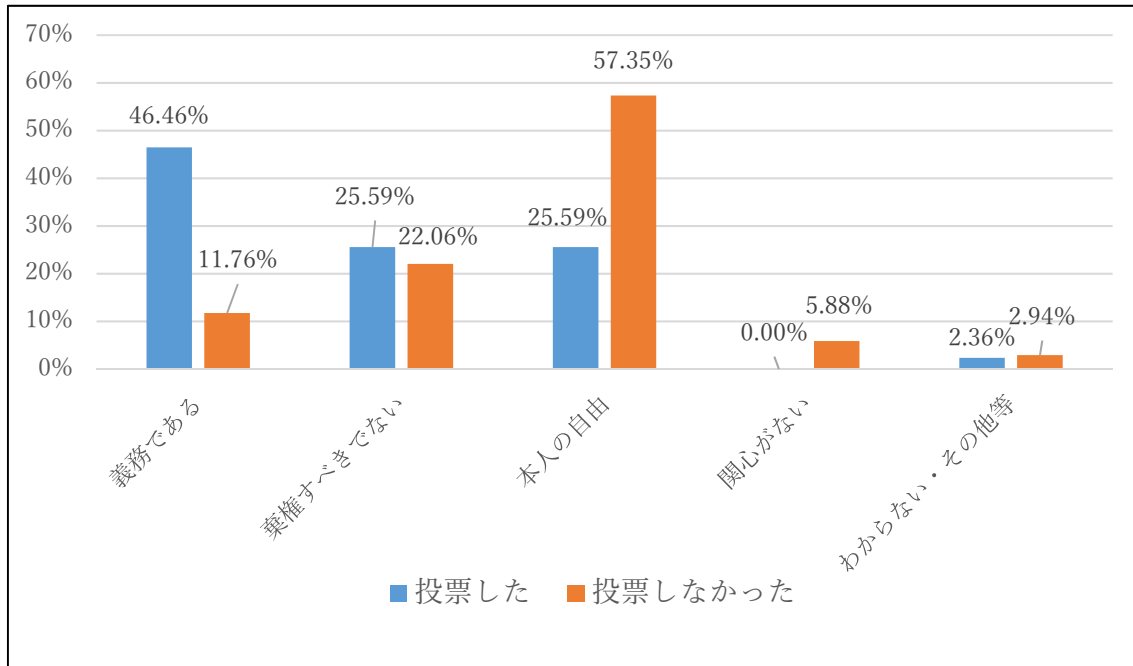
政治への関心度合いと投票行動との関連性について、「投票した人」の政治への関心については、「非常にある（17.32%）」、「ある程度ある（67.32%）」あわせて84.64%となるなど、「関心がある人」は8割を超えた一方、「投票しなかった人」については、「非常にある（4.41%）」、「ある程度ある（54.41%）」あわせて58.82%と6割程度で、「投票した人」と25.82%の差となり、衆議選挙と比べるとその差は小さいものの、一定の相関性を有していることがわかります。また、衆議選挙同様、政治に「関心がある」ものの、投票を「していない」約6割の方について、実際の投票行動につなげてもらえるような取組みが求められています。

【選挙への関心度合いと投票行動との関係について】



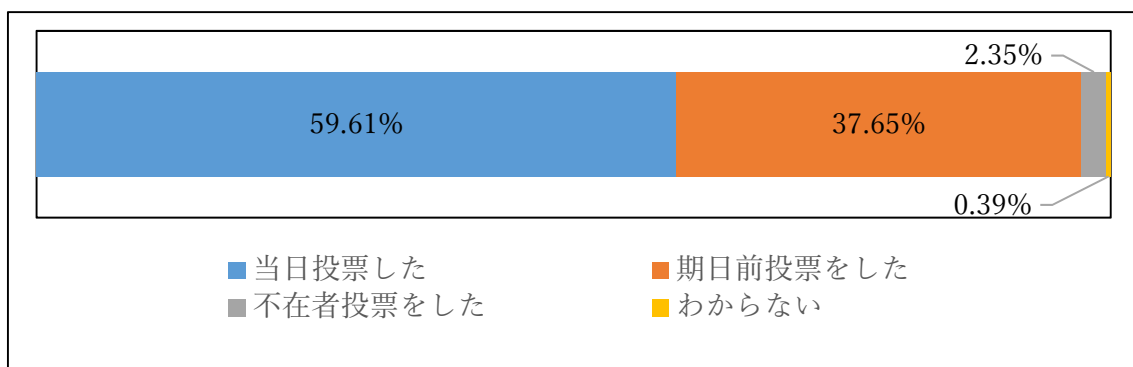
また、選挙への関心度合いと投票行動との関係についても、「投票した人」の選挙への関心が「非常にある（17.72%）」、「ある程度ある（65.75%）」あわせて 83.47%となるなど、「関心がある人」は8割を超えたのに対し、「投票しなかった人」については、「非常にある（5.88%）」、「ある程度ある（42.64%）」あわせて 48.53%と5割程度と、「投票した人」と34.94%の差が生じており、政治への関心度合い同様、衆議選挙と比べるとその差は小さいものの、一定の相関性を有していることがわかります。また、政治への関心度合いと同様に、選挙に「関心がある」ものの、投票を「していない」約5割の方について、実際の投票行動につなげてもらえるような取組みが求められています。

【投票への考えと投票行動との関係について】



投票への考えと投票行動との関係についても、「投票した人」の投票への考えについて「義務である（46.46%）」、「棄権すべきでない（25.59%）」あわせて 72.05%と、約 7 割が投票すべきと回答したのに対し、「投票しなかった人」については、「義務である（11.76%）」、「棄権すべきでない（22.06%）」あわせて 33.82%と約 3 割に留まる一方、「本人の自由（57.35%）」と約 6 割を占め、衆議選挙と同様、考え方の違いによる投票行動の差が生じていることがわかります。

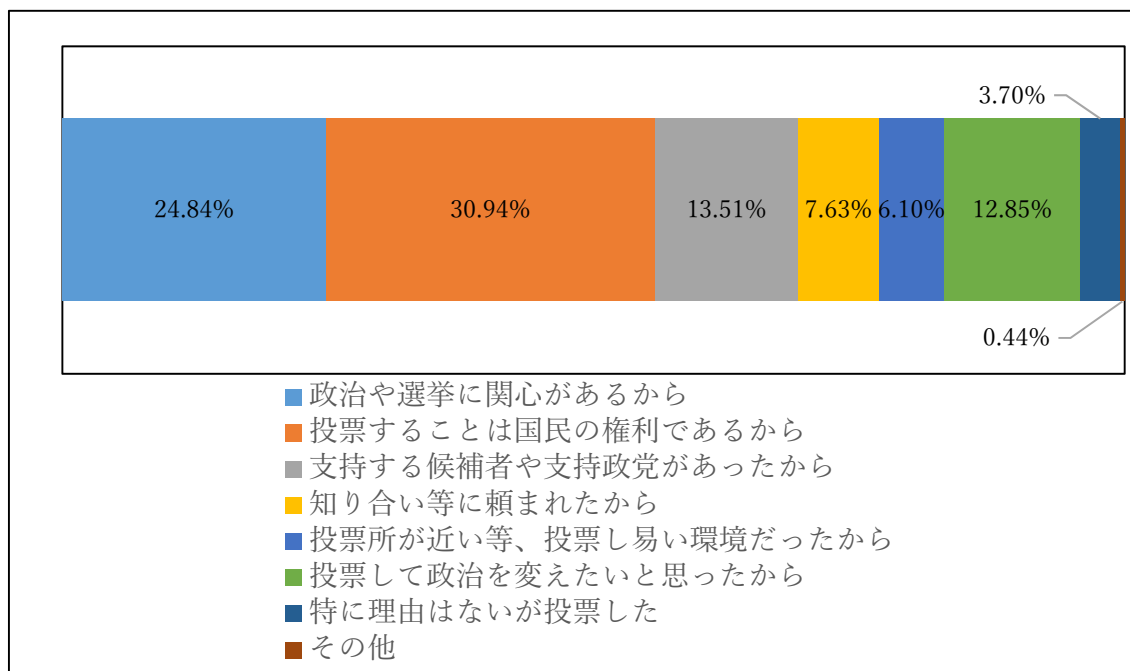
②投票の方法について



市長選挙については、「当日投票した」割合が約 6 割で、「期日前投票をした」割合が約 4 割となっています。衆議選挙と比べると当日投票した割合が 3 ポイントほど高くなっていますが、ほぼ同様の傾向を示しています。

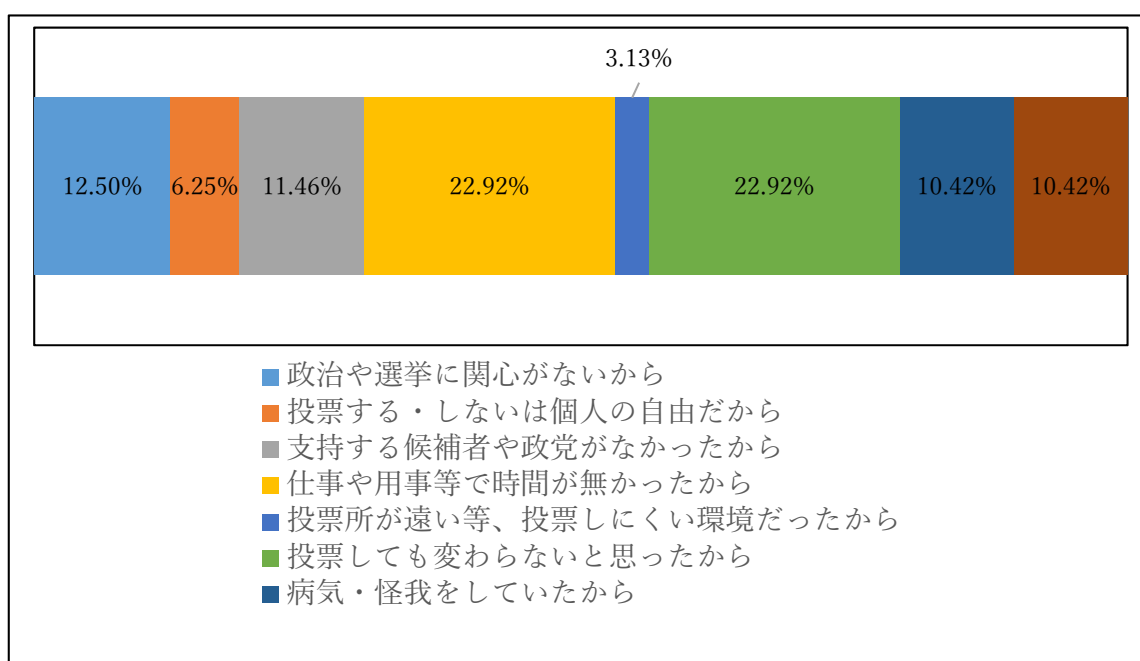
なお、市長選挙の投票者数全体でも、当日投票 60.07%、期日前投票 38.79%となっており、今回の調査結果とほぼ一致しています。

③投票した理由について（複数回答可）



投票した理由については、「投票することは国民の権利であるから（30.94%）」の割合が一番高く、次いで「政治や選挙に関心があるから（24.84%）」、「支持する候補者や支持政党があったから（13.51%）」と続くなど、衆議選挙と同様、政治や選挙に関心を持ち、自分の意志で投票した人が多くなっています。

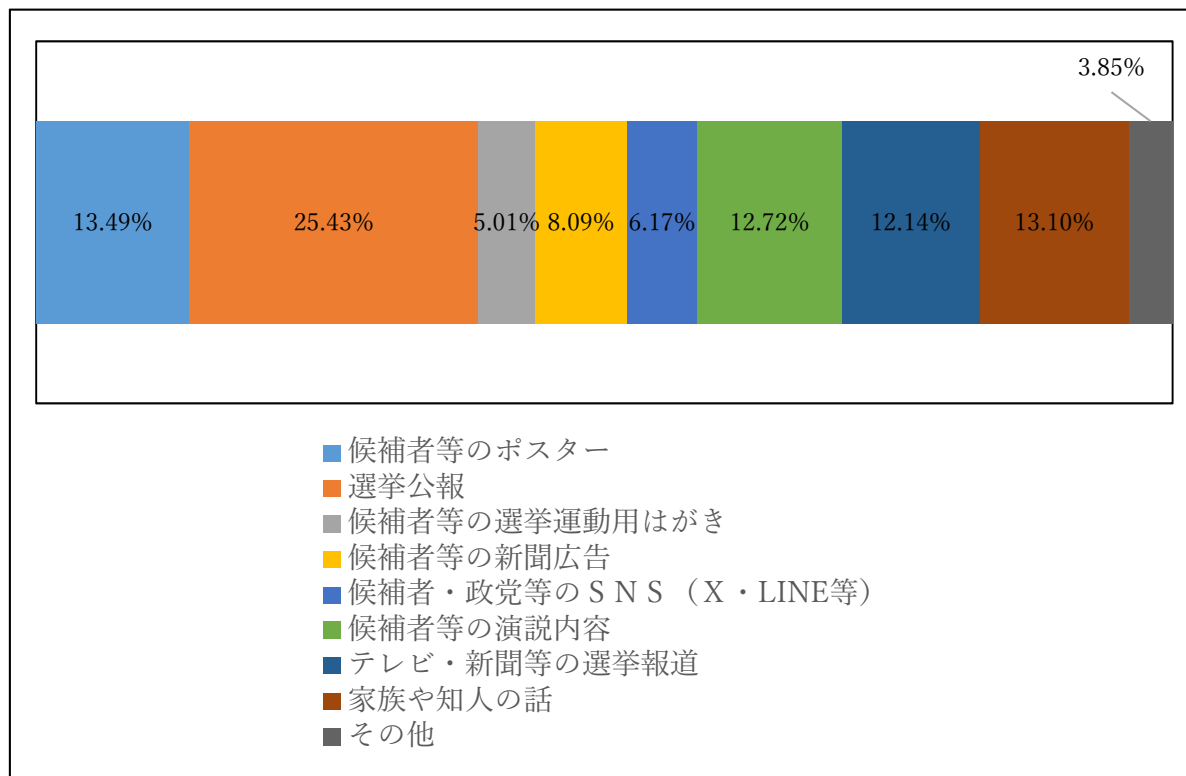
④投票しなかった理由（複数回答可）



一方で投票しなかった理由については、「投票しても変わらないと思ったから（22.92%）」

及び「仕事や用事等で時間が無かったから（22.92%）」の割合が一番高く、次いで、「政治や選挙に関心がないから（12.50%）」と続くなど、衆議選挙とほぼ同様の理由という結果となっています。

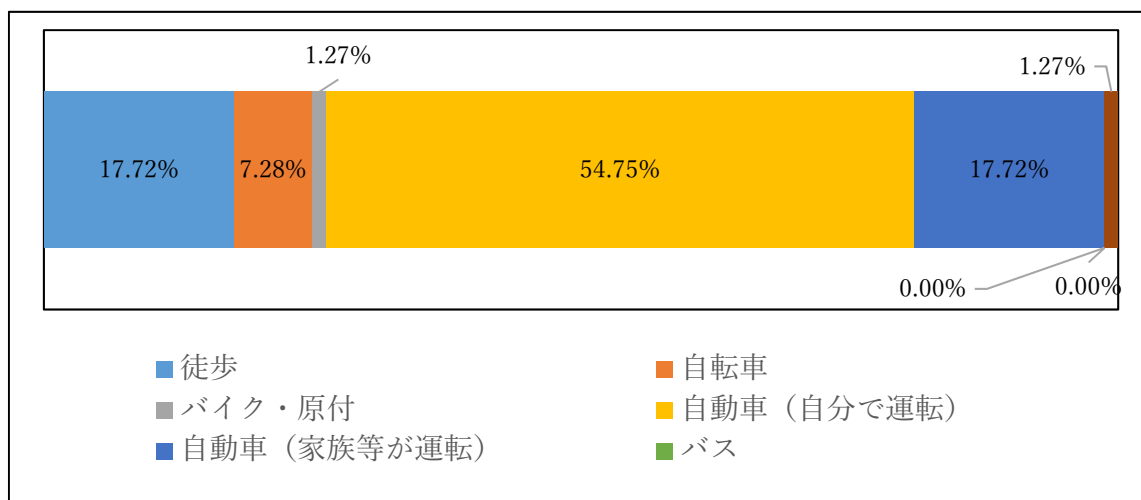
⑤投票する（しない）に影響のあった媒体（複数回答可）



投票する（しない）に影響のあった媒体については、「選挙公報（25.43%）」の割合が一番高く、次いで「候補者等のポスター（13.49%）」、「家族や知人の話（13.10%）」と続く結果となりました。衆議選挙と比べると、「テレビ・新聞等の選挙報道（12.14%）」よりも「候補者等のポスター」や「家族や知人の話」「候補者等の演説内容（12.72%）」といった割合が大きくなり、選挙報道や地域内における候補者による演説の回数の多寡等により影響に差が生じる結果となっています。

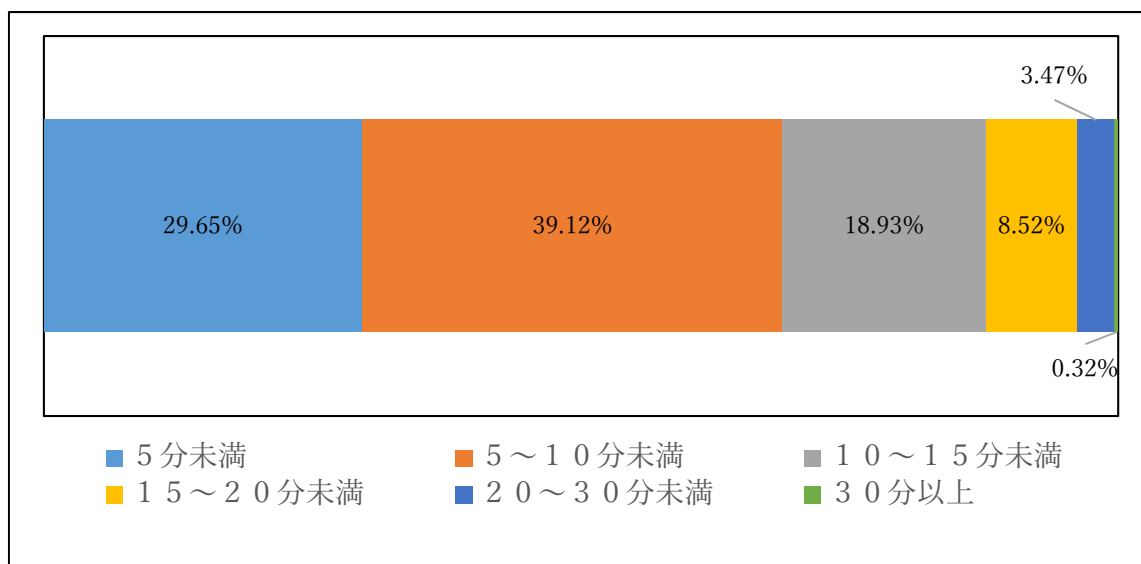
(ウ) その他

① 自宅から投票所（期日前投票所）までの移動手段について



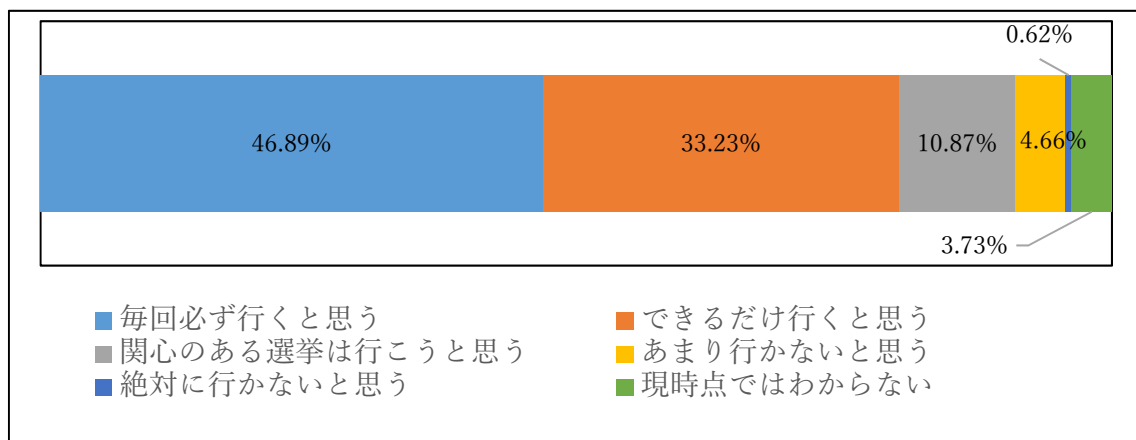
自宅から投票所（期日前投票所）までの移動手段について、「自動車（自分で運転）（54.75%）」の割合が一番高く、次いで「徒歩（17.72%）」及び「自動車（家族等が運転）（17.72%）」の割合が高い結果となっています。

② 自宅から投票所（期日前投票所）までの所要時間について



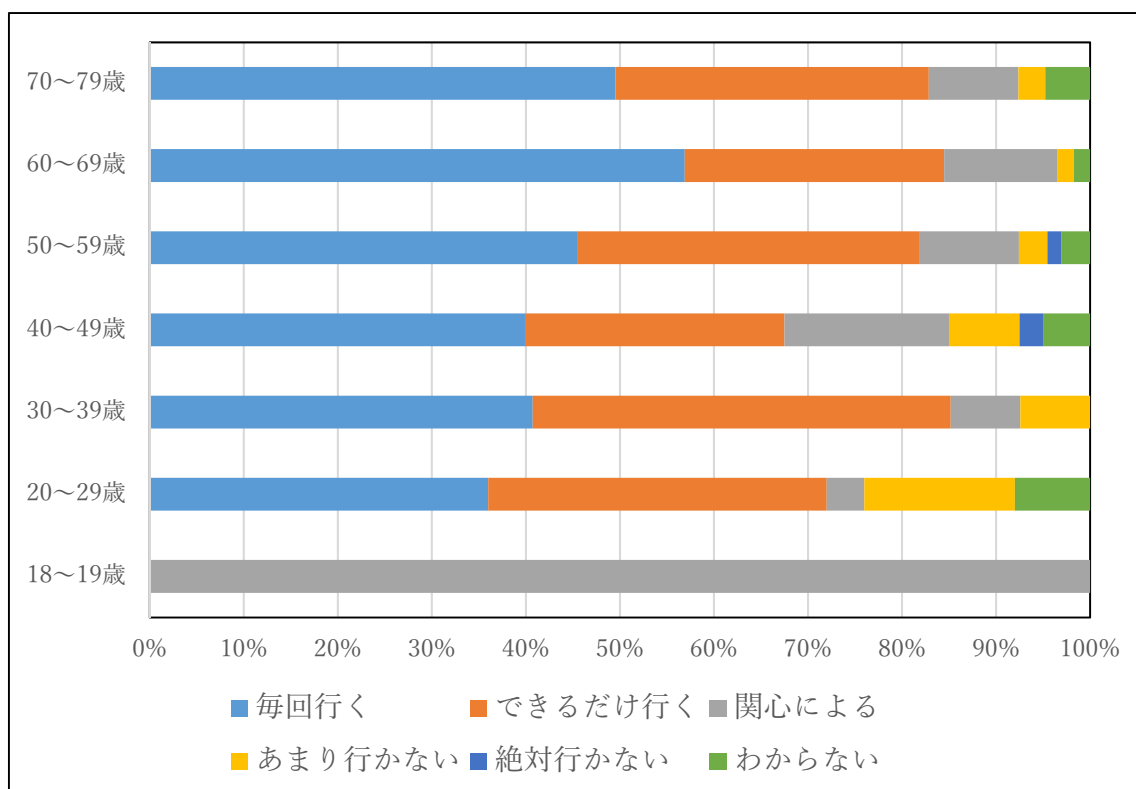
自宅から投票所（期日前投票所）までの所要時間については、「5～10分未満（39.12%）」の割合が一番高く、次いで「5分未満（29.65%）」の割合が高い結果となっています。

③令和7年度以降に行われる選挙の現時点での考えについて



令和7年度以降に行われる選挙の現時点での考えについては、「毎回必ず行くと思う（46.89%）」、「できるだけ行くと思う（33.23%）」あわせて80.12%と、約8割の人が肯定的な考えを持っていることがわかります。

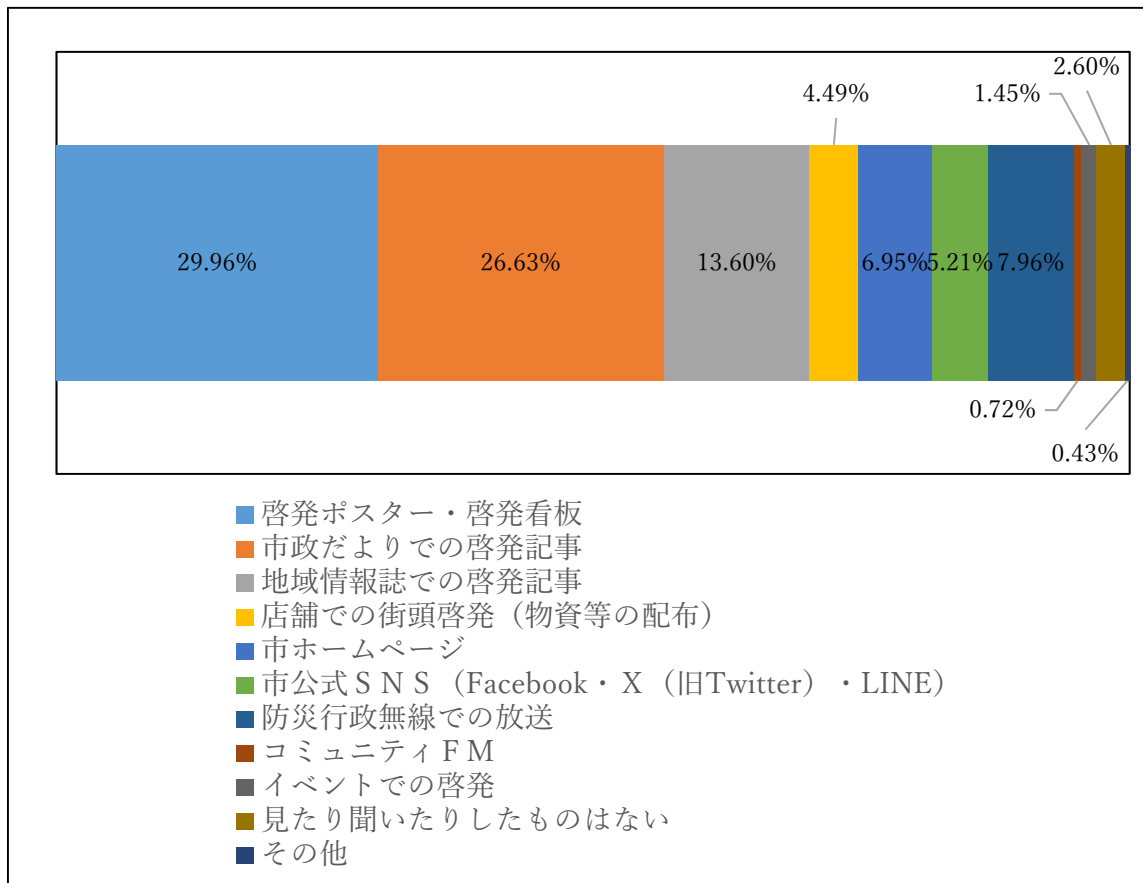
【年代別の集計結果】



年代別の集計結果では、「毎回行く」割合については、年齢が上がるごとに増えておりますが、「できるだけ行く」をあわせると「30～39歳」の割合が一番高い（85.18%）結果となっています。

（３）選挙啓発について

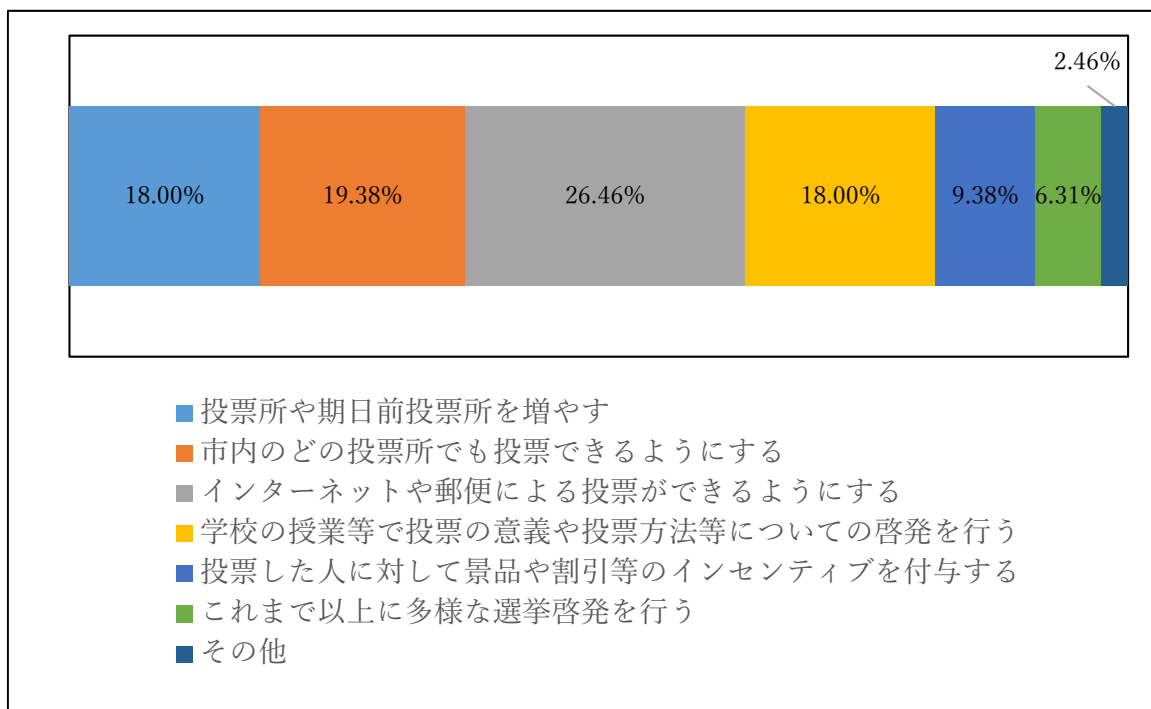
選挙管理委員会では、選挙時を中心に啓発活動を行っているが、次の中で見たたり聞いたりしたものはあるか。（複数回答可）



選挙管理委員会で実施している啓発活動のうち、見たたり聞いたりしたことがあるものについては、公共施設等に設置している「啓発ポスター・啓発看板（29.96%）」の割合が一番高く、次いで「市政だよりでの啓発記事（26.63%）」、「地域情報誌での啓発記事（13.60%）」と続く結果となっています。近年、明るい選挙推進協議会と連携した商業施設での街頭啓発やSNS（Facebook・X（旧Twitter）・LINE）を活用した情報発信についても積極的に行っているものの、見聞きしたことがある人がそれぞれ5%前後と、浸透していない結果となったことから、今後、多様な手段を活用しての選挙啓発に取り組んでいく必要があります。

(4) 選挙全般について

投票率の向上のために何をすれば効果があるか。(複数回答可)



投票率の向上のために何をすれば効果があるかについては、「インターネットや郵便による投票ができるようにする (26.46%)」が一番高く、次いで「市内のどの投票所でも投票できるようにする (19.38%)」「投票所や期日前投票所を増やす (18.00%)」「学校の授業等で投票の意義や投票方法等についての啓発を行う (18.00%)」と続く結果となりました。

スマートフォンの普及等を背景とした新たな投票制度や投票環境向上を求めるもの、主権者教育の充実を求めるもの等、多様な意見に分かれていましたが、国の制度改正等の動向に注視しつつ、実施可能な方策から取り組みを進めてまいります。

(5) 自由意見について

自由意見の集計 (58件)

今回の市民意識調査においていただいたご意見について、項目別に分類集計した結果は、以下のとおりです。

- ・候補者・政党等に関すること (17件)
- ・投票率及び投票環境の向上に関すること (14件)
- ・主権者教育に関すること (4件)
- ・投票に対するインセンティブ・ペナルティに関すること (5件)
- ・メディアの報道に関すること (1件)
- ・その他(選挙制度・選挙運動等について) (17件)

4 まとめ

今回の市民意識調査に多くの皆様からご回答・御意見をお寄せいただき、ありがとうございました。

今回の意識調査については、回答者の年代について、70歳以上の方からの回答が3割超となるとともに、昨年度の選挙についての投票の有無に関する質問で「投票した」と回答された方が約8割であったことから、回答内容やご意見は、「投票した」人を中心とする視点での結果となり、回答内容や意見に偏りがあった点は否めませんが、政治・選挙に対する関心や投票に対して前向きな意識を持っていることがわかりました。また、調査結果からは、政治・選挙に対する考えと実際の選挙における投票行動の相関性が高いこと、期日前投票所を利用する割合が高くなってきていることが判明するとともに、選挙啓発について多様な手段で実施しているものの、SNSを活用した情報発信を行っていることについて等の周知が不足していることや投票環境向上に対する取組みや主権者教育の充実など、今後の課題も見えてきたところです。

今回いただいたご回答、ご意見等につきましては、今後の投票率及び投票環境の向上、また、選挙啓発の取組みを進める中での活用させていただきます。今後とも適正な選挙の管理執行と選挙啓発の充実に努めてまいりますので、ご理解・ご協力いただきますようお願い申し上げます。

【参考資料】調査票について

(4) 選挙啓発についてお聞かせください。

選挙啓発委員会では、選挙啓発を中心に、投票日や期日前投票の日時についてなどお知らせする新運動会を行っています。次の中で見たことのあるものがありますか。

(見てはまるもの全てに○をつけてください)

- | | |
|---------------|--------------------------------------|
| 1 啓発ポスター・啓発看板 | 2 市政だよりの啓発記事 |
| 3 地域情報誌での啓発記事 | 4 戸籍での啓発啓発 (啓発等の配布) |
| 5 市ホームページ | 6 市公式SNS (Facebook・X (Twitter)・LINE) |
| 7 市営行政無線での放送 | 8 コミュニティFM |
| 9 イベントでの啓発 | 10 見たり聞いたりしたものはいい |
| 11 その他() | |

(5) 最後に、選挙全般についてお聞かせください。

○投票中の覚悟が強いですが、以下のためにとどんなことをすれば効果があると感じますか。

(見てはまるもの全てに○をつけてください)

- 投票所や期日前投票所を確保する
- 市内のどの投票所でも投票できるようにする
- インターネットや郵便による投票ができるようにする
- 学校の給食等で投票の必要や投票方法等についての啓発を行う
- 投票した人に対して感謝や感謝のインセンティブを付与する
- これまでに以上に多様な選挙啓発を行う
- その他()

○選挙に関する意見・要望等がございましたら、お聞かせください。(自由記入)

※ご協力ありがとうございます。

同封の返信用封筒に入れて令和7年4月30日(水)までご返送ください。

新田原市選挙管理委員会事務局
電 話 65-1311
FAX 65-1641
E-mail senkan@city.nihama.lg.jp

選挙に関する市民意識調査

新田原市選挙管理委員会では、このたび、市民の皆さんの政治・選挙に対する意識調査を実施することとなりました。

皆さんからご回答いただきました内容につきましては、選挙の啓発における課題である投票率・投票率の向上に関する資料として活用していきたいと考えておりますので、ご協力いただきますようお願いいたします。

＜回答に当たってのお願い＞

この調査は、令和7年3月12日現在、新田原市に住民登録されている18歳以上のの方の中から無作為抽出し、お送りしてあります。

- ・必ずご本人様ご記入してください。(お名前を書いていただく必要はありません。)
- ・当てはまる項目に○をつけてください。その他に当てはまる場合は四角を記入してください。
- ・回答いただいた内容は統計的に処理します。
- ・令和7年4月30日(水)まで同封の返信用封筒に入れてご返送をお願いします。

(1) まず最初に、あなた自身のことについてお聞かせください。

○年齢 (年代)

- | | | | |
|----------|----------|----------|----------|
| 1 18～19歳 | 2 20～29歳 | 3 30～39歳 | 4 40～49歳 |
| 5 50～59歳 | 6 60～69歳 | 7 70歳以上 | |

○性別

- | | | | |
|------|------|-------|-------|
| 1 男性 | 2 女性 | 3 その他 | 4 不回答 |
|------|------|-------|-------|

○居住エリア

- | | | | |
|--------|--------|------------|-------|
| 1 川内地区 | 2 川東地区 | 3 上郷・聖子山地区 | 4 不回答 |
|--------|--------|------------|-------|

○市内居住年数 (選挙年数)

- | | | | |
|------------|------------|----------|-----------|
| 1 1年未満 | 2 1～3年未満 | 3 3～5年未満 | 4 5～10年未満 |
| 5 10～20年未満 | 6 20～30年未満 | 7 30年以上 | |

○職業

- | | | | |
|-----------|--------------|-----------|------|
| 1 会社員・公務員 | 2 自営業・会社経営 | 3 家計主 | 4 学生 |
| 5 主婦 (大) | 6 主婦 (小・中・高) | 7 その他 () | |

○家族構成

- | | | |
|-----------------|----------------|--------------------|
| 1 1人世帯 | 2 二世帯世帯 (夫婦のみ) | 3 二世帯世帯 (親と子・親と兄弟) |
| 4 三世帯世帯 (祖・子・孫) | 5 その他 () | |

(2) 政治・選挙に対する関心等についてお聞かせください。

○あなたは、市、県、国や地方の政治にどの程度関心がありますか。

- | | | |
|------------|-------------|------------|
| 1 非常に関心がある | 2 ある程度関心がある | 3 あまり関心がない |
| 4 全く関心がない | 5 わからない | 6 その他 () |

○あなたは、市、県、国や地方の選挙にどの程度関心がありますか。

- | | | |
|------------|-------------|------------|
| 1 非常に関心がある | 2 ある程度関心がある | 3 あまり関心がない |
| 4 全く関心がない | 5 わからない | 6 その他 () |

○あなたは、選挙で投票することについてどのような考えを持っていますか。

- | | | |
|------------|-------------|------------|
| 1 投票は義務である | 2 選挙すべきではない | 3 本人の自由である |
| 4 関心がない | 5 わからない | 6 その他 () |

(3) 昨年行われた選挙についてお聞かせください。

○昨年10月には新田原市議員選挙及び最高裁判所裁判官国民審査、11月には新田原市長選挙が行われました。これらについてあなたはどう感じましたか。

＜新田原市議員選挙及び最高裁判所裁判官国民審査 (令和6年10月27日執行)＞

投票の自由	1 投票した	2 投票しなかった
投票の方法	1 当日投票した	2 期日前投票した
投票した(なかった)理由	1 政治や選挙に関心があるから ○は投票可	2 投票する・しないは個人の自由だから ○は投票可
投票した(なかった)理由	3 政治や選挙に関心があるから ○は投票可	4 投票する・しないは個人の自由だから ○は投票可
投票した(なかった)理由	5 政治や選挙に関心があるから ○は投票可	6 投票する・しないは個人の自由だから ○は投票可
投票した(なかった)理由	7 政治や選挙に関心があるから ○は投票可	8 投票する・しないは個人の自由だから ○は投票可
投票した(なかった)理由	9 政治や選挙に関心があるから ○は投票可	10 投票する・しないは個人の自由だから ○は投票可

＜新田原市長選挙 (令和6年11月10日執行)＞

投票の自由	1 投票した	2 投票しなかった
投票の方法	1 当日投票した	2 期日前投票した
投票した(なかった)理由	1 政治や選挙に関心があるから ○は投票可	2 投票する・しないは個人の自由だから ○は投票可
投票した(なかった)理由	3 政治や選挙に関心があるから ○は投票可	4 投票する・しないは個人の自由だから ○は投票可
投票した(なかった)理由	5 政治や選挙に関心があるから ○は投票可	6 投票する・しないは個人の自由だから ○は投票可
投票した(なかった)理由	7 政治や選挙に関心があるから ○は投票可	8 投票する・しないは個人の自由だから ○は投票可
投票した(なかった)理由	9 政治や選挙に関心があるから ○は投票可	10 投票する・しないは個人の自由だから ○は投票可

○ご自宅から投票所(期日前投票所)までの移動手段は何を使用されていますか。

- | | | |
|--------------|-----------------|----------|
| 1 徒歩 | 2 自転車 | 3 バイク・原付 |
| 4 自動車 (自分だけ) | 5 自動車 (家族等と一緒に) | 6 バス |
| 7 タクシー | 8 その他 () | |

○ご自宅から投票所(期日前投票所)までの移動時間はどのくらいですか。

- | | | |
|------------|------------|------------|
| 1 5分未満 | 2 5～10分未満 | 3 10～15分未満 |
| 4 15～20分未満 | 5 20～30分未満 | 6 30分以上 |

○令和7年度以降に行われる選挙について、現時点での考えはどれに当てはまりますか。

- | | |
|-------------------|--------------|
| 1 同じでいいと思う | 2 できるといいと思う |
| 3 同じである選挙は行わないと思う | 4 あまり行わないと思う |
| 5 進められないと思う | 6 進められないと思う |